

【パブリックセキュリティ領域に関する Q&A】

Q1 パブリックセキュリティ領域では何を学ぶのですか

A 日常的に発生する犯罪や国際的なテロなどによる、市民や公共の安全を確保するための治安対策において必要な法制度、司法制度、刑事政策、警察等関係行政組織の制度などについて学びます。

Q2 パブリックセキュリティ領域での学びは、社会でどのように役立ちますか

A 警察、入国管理などの行政実務経験豊富な教員による実践的な学びが中心ですので、そのような職業で求められる知識技能を身に付けることができます。また、人間活動のあらゆる場面で犯罪・事故などの危険が存在しており、これらへの意識的な対処は安全安心な生活を送る上で極めて大切な知見となります。

Q3 他大学でも類似の学びをすることは可能ですか

A 他大学でも、犯罪や事故に関する講義を行っているところがありますが、いずれも単発的であり、本学部のように総合的かつ実務的な内容のカリキュラムを持つ大学はありません。こうした学びは、米国ではクリミナルジャスティスと呼ばれ、1970年代から盛んに行われており、このパブリックセキュリティ領域は、日本初のクリミナルジャスティス教育プログラムです。

Q4 具体的にはどのような授業がありますか

A 総論的な科目としては、社会安全政策論、セキュリティ論、犯罪心理学、インテリジェンス論などです。このうち刑事司法の分野では、刑事司法手続き、犯罪と法、刑事政策。警察分野では、警察制度、警察政策、犯罪と捜査。このほか、テロ分野として、テロ対策論、ライフライン防護、運輸保安などがあります。

Q5 特にユニークな講義は何ですか

A インテリジェンス論です。情報活動の実務経験を有する教員が、世界各国の諜報と防諜活動、いわゆる「スパイ活動」について、様々な角度から講じています。